

令和6年度第7回霞ヶ浦自然観察会実施結果

日 時：令和6年11月16日（土） 8時30分～16時まで

テーマ：利根川の変遷を探るー作り替えられた関東平野の河川ー

場 所：江戸幕府による河川改修や利根川治水事業に関する観察地（詳細は次ページより）

講 師：矢野徳也先生（筑波山地域ジオパーク推進協議会 教育・学術部会副部会長）

内 容：霞ヶ浦は利根川水系に属します。利根川は江戸時代のはじめまでは東京湾にそそぐ川でしたが、その後江戸幕府による河川改修により、銚子で太平洋に注ぐ現在の流れになりました。この観察会では、これまでの約400年間の歴史の中で、利根川とその関連の河川において、その自然とどのような変遷の歴史があったのかを現地にて学びました。

参加者：22名

担当職員：6名

パートナー：5名

結 果：霞ヶ浦環境科学センターのバスに参加者全員乗車し、1日かけて、利根川と利根川に関係する河川の自然や流路の変遷について学習しました。矢野先生の用意周到な準備のもと、1日で効率よく複雑な利根川に関係する水系の変遷を学習することができました。

この観察会は、昨年の桜川観察会に続き長時間にわたるものでしたが、参加者全員元気で無事に観察会を終えることができ、参加者の満足度もたいへん高いものとなりました。矢野先生、充実した観察会を指導していただき、ありがとうございました。以下に矢野先生が作成してくれた観察資料の中から、観察地の解説に関する文章を抜粋して掲載します。

利根川の変遷を探るー作り替えられた関東平野の河川ー

矢野徳也(筑波山地域ジオパーク推進協議会 教育・学術部会副部会長)

- ①霞ヶ浦環境科学センター
- ②関宿水閘門(千葉県野田市関宿・茨城県猿島郡五霞町山王)
- ③渡良瀬川旧流路(埼玉県幸手市戸島)
- ④権現堂堤(埼玉県幸手市内国府間)ー昼食ー
- ⑤高野砂丘(埼玉県北葛飾郡杉戸町下野)
- ⑥大落古利根川(おおおとしふるとねがわ・埼玉県北葛飾郡杉戸町下高野)
- ⑦道の駅アグリパークゆめすぎと(埼玉県北葛飾郡杉戸町才羽)ー休憩ー
- ⑧西宝珠花(埼玉県春日部市西宝珠花)
- ⑨法師戸水門(茨城県坂東市法師戸)
- ⑩菅生調整池(茨城県守谷市板戸井・千葉県野田市木野崎)
- ⑪清瀧香取両神社(茨城県守谷市板戸井)

土浦駅 経由 環境環境科学センター

各地点のみどころ

②関宿水閘門（せきやどすいこうもん）

- ・北西に現在の利根川と江戸川が分岐する場所。
- ・江戸川の流量を調整する関宿水閘門（1927年完成・日本土木学会選奨土木遺産）がある。コンクリート造り初期の貴重な建造物。
- ・この下流でかつて権現堂川が合流し江戸時代の末に川幅を狭める工事が行われ（関宿棒出し）た。明治になってさらに強化され、江戸川に流れる水が制限され、現在の利根川下流が主流路となった。この背景には足尾鉍毒事件があると考えられている。関宿閘水門が完成すると、権現堂川が締め切られる（1927年）。
- ・中の島公園には明治の棒出し強化工事に使用した石材、総武鉄道江戸川橋梁の一部（1907年架橋）、築堤工事で使用されたトロッコのレールの藤棚が展示されている。

③渡良瀬川旧流路（わたらせがわきゅうりゅうろ）

- ・古代以前に中川低地を流れていた渡良瀬川水系の河川が作った曲流跡。ゆるやかな弧を描く自然堤防の微高地が集落となっている。

④権現堂堤（ごんげんどうつつみ）

- ・1621年に利根川と渡良瀬川が接続され、権現堂川が利根川の流路になった。洪水の頻発に築かれた堤が権現堂堤。1927年以降は中川に接続されているが、権現堂堤－現利根川間は洪水調整池として利用される。

⑤高野砂丘（たかのさきゅう）

- ・中世に利根川流路であった会の川・大落古利根川に沿って加須市～春日部市に河畔砂丘が発達している。西に曲がった流れの内側(東側)に溜まった砂が冬の季節風で吹き上げられて堆積した。また、砂丘や自然堤防上が古くから主要な道となっていた。

⑥大落古利根川（おおおとしふるとねがわ・車中より見学）

- ・中世には利根川の流路であった。下流で荒川（元荒川）、入間川と合流し、東京湾に流れ込んでいた。洪水が多いこれらの河川を御することが江戸時代の低地の開発の課題となった。

⑧西宝珠花（にしほうしゅばな）

- ・渡良瀬川の流路であった庄内古川と利根川を接続したため、関宿－野田間の下総台地を掘削し庄内古川の下流と接続した江戸川が作られ、利根川の主流路となった。また猿島台地を掘削した赤堀川で常陸川を経て鬼怒川下流に繋げ、舟運にも貢献した。
- ・宝珠花村は江戸川の開削で西宝珠花と東宝珠花（現千葉県野田市）に分割された。利根川流域と江戸を結ぶ舟運の要衝となり栄えた。
- ・1947年のカスリーン台風の大水害を受け、江戸川の改修が始まり、河川敷になってしまう西宝珠花の集落の75%の約250戸が曳家で移転した。1953年に完了し、江戸川の拡幅と築堤が開始された。

⑨法師戸水門（ほうしどすいもん・車中からの見学の場合あり）

- ・縄文時代に内陸まで広がっていた海（古鬼怒湾）の跡。かつて、周囲には大山沼、釈迦沼、長井戸沼、一ノ谷沼、鶴戸沼、飯沼などの水域があったが、残るのは菅生沼だけになった。牛久沼、手賀沼、印旛沼、霞ヶ浦（西浦・北浦）も生き立ちを同じくする。
- ・菅生沼や飯沼干拓地への逆流を防ぐため、1955年に法師戸水門が設けられた。2003年に改修されている。法師戸水門設置以前は菅生沼の中に設けられた反町堤防・反町閘門（1900年完成）が上流への逆流防止の役割を担っていた。

⑩菅生調整池（すがおちょうせいち・車中から見学）

- ・利根川増水時に越流させて流量を減らし下流の水害を和らげる調整池。田中調整池（千葉県柏市）、稲戸井調整池（守谷市・取手市）の調整池がある。また、利根川に合流する渡瀬川水系にも渡良瀬遊水地が設けられ、渡良瀬川・巴波（うずま）川・思（おもい）川の洪水調整を行う。

⑪清瀧香取両神社（きよたきかとりりょうじんじゃ）

- ・鬼怒川から南に延びる谷津と台地を開削して常陸川（現利根川）に接続。つくばみらい市寺畑で締め切り小貝川と分離した（1629年）。開削した深い掘割には現在赤い鉄橋の滝下橋が架かっている。
- ・鬼怒川の新流路には川に面して河岸が設けられ宿屋も建てられたという。鳥居の一つが川に向いているのは河岸から参道が設けられていたため。

第7回霞ヶ浦自然観察会



関宿城の堤防から利根川・江戸川の分岐方向を見る



利根川と分岐した江戸川にある関宿水閘門



かつて権現堂川と江戸川の接続部の棒出しを作っていた石（中之島公園に保存されている）



権現堂川にかかる外野橋でその流路と堤を観察



かつての利根川流路に作られた河岸砂丘を残す高野砂丘



高野砂丘の上に建てられている八幡神社で砂丘を観察



清瀧香取両神社付近から鬼怒川にかかる滝下橋を望む



その堤防で開削した鬼怒川の流路を観察する